名稱

婬

婬ハ、舊クタハク、又フケルト云ヒ、後ニイロゴノミ、スキナド云ヘリ、色ニ溺ルヽヲ謂フナリ、

〔新撰字鏡女〕婬烏林反、過也、遊逸也、戲也、私逸也、姦同、公安胡于二反、亂也、犯婬也、誰也、比須加和佐、又太波久、婬而一以悉二反、樂戲也、婬也、躭也、太波志、又宇良也牟、婸太朗反、戲也、遊也、南方宿名、不介留、又太波志、

〔類聚名義抄女〕婬音遥　タハル　アソフ　タハレ　ウカレメ　タハフル

〔伊呂波字類抄人事〕婬タハレ　嬈已上タハレ

〔同伊疊字〕婬奔　婬佚　婬欲

〔同志疊字〕邪婬

〔書言字考節用集言辭八〕婬虐（インギャク）耽女色曰婬虐　婬欲（キンヨク）　婬亂（キンラン）　婬犯（キンホン）　婬佚（イン イツ）韵會、佚過也、　婬姦（トロケル）同　婬色（テボル）

〔同言辭九〕邪婬（ジャキン）法界次第、於非妻妾而行欲事、故名爲邪婬、

〔干祿字書平聲〕婬嫐上婬蕩字、音淫、下妖嬈字、音遥、

〔倭訓栞前編十二〕すきごと　後撰集、伊勢物語、源氏物語にみゆ、好色をいふ、好事の義也、すきもの、といふ意同じ、古說に物を過て好むをすきといふ、新撰字鏡に僭をすけりともかたくなともよめり、一說に數奇事の義なるべし、略下

〔後撰和歌集十四戀〕おとこのまできて、すき事をのみしければ、人やいかゞみるらんとて、

よみ人しらず略歌

〔源氏物語四夕顏〕かの夕がほのやどりには、略中惟光をかこちけれど、いとかけはなれ氣色なくいひなして、なをおなじごとすきありきければ、いとゞゆめの心ちして、もしずりやうの子どもの、すき〳〵しきが、頭の君にをち聞えて、やがてゐてくだりけるにやとぞ思ひよりける、

〔倭訓栞前編二十八保〕ほれる　心のほれるは恍字の義、楚辭の注に、恍は失意也と見えたり、恍惚も同じ、耄を老にほるゝといひ、色に溺るゝをもほれるといへり、ほるゝも同じ、

〔日本書紀十二履中〕八十七年德仁正月、大鷦鷯天皇德仁崩、皇太子履中自諒闇出之、未卽尊位之間、以羽

婬例